

新たな乳用牛の家畜改良増殖目標の骨子案に対する都道府県の意見・要望及び対応方向について

No	該当箇所	項目	意見・要望	対応方向
1		全体	<p>全体としては次のような印象を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回示された骨子二次案については、第2回研究会での委員意見を十分に踏まえたものになっていないのではないか。</li> <li>・ 飼養管理改善の重要性は認めるものの、家畜改良増殖目標は家畜改良の方向性を示すものであり、特に「2改良目標」の項目において、改良と飼養管理の記載が混在している。飼養管理改善については、現在、「乳用牛ベストパフォーマンス実現会議」で論議されており、改良は改良として目標を明確にして、飼養管理改善への言及とは分けて記載するべきではないか。</li> <li>・ まずは、10年後を目標として、何を重点にしなが、どのような牛づくりをするのかを明確にし、それを明記すべきではないか(頑健でハンドリングの良い牛など)。</li> </ul>	<p>研究会においては、実搾乳量を目標にすべきという議論があったが、これは、改良の成果を酪農経営において十分に発揮してもらおうという観点から、家畜改良だけではなく飼養管理にも同様に力点を置くべきという各委員の認識があったためと理解している。</p> <p>また十年後の牛づくりについては、酪農経営において生涯生産性に優れた牛群づくりに向け、必要な家畜改良の方向性を示したものとしているところ。</p>
2	1	改良増殖をめぐる現状と課題	<p>遺伝的能力が十分に発揮されていない理由について、猛暑や繁殖性の低下を主なものとしているが、現場での一般的な飼養管理に寄るところも大きいと考えられる。基本的な飼養管理技術の見直しの必要性が感じられる表現もあるとよい(2(3)④に記載はあるが冒頭にも)。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「1 改良増殖をめぐる現状と課題」に「近年の猛暑や繁殖性の低下等の飼養管理面での影響より、」を追記</p>
3	1	改良増殖をめぐる現状と課題	<p>飼料利用性向上の背景として、自給飼料基盤立脚だけでなく、飼料価格高騰への対応策の一つとしての意味合いも含めていただきたい(本県のように自給飼料基盤が脆弱な地域では、輸入飼料の効率的な活用についても検討していく必要がある)。 →2(1)⑤についても同</p>	<p>飼料価格の上昇への対応については、乳用牛に限らず、全畜種に共通する課題であるため、本目標の冒頭に酪肉近とも整合した記述を行う見込み</p>
4	2の(1)の⑤	飼料利用性	<p>飼料利用性の定義が不明確であり、定義(説明)を明確した方がよい。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、飼料利用性の改善の目的を明確化するため、「飼料コストの低減に向け、自給飼料基盤に立脚した酪農経営を実現するため、引き続き泌乳持続性の改良と併せて、個別の牛の飼料給与や放牧に関するデータ収集等の充実を図り、飼料利用性の向上を推進。」と修文</p>
5	2の(1)の⑤	飼料利用性	<p>「飼料利用性の向上」が改良による「粗飼料からのエネルギー変換効率改善」の意味であれば、「過肥や削瘦の回避」が「飼料利用性の改善」につながるものではないのでは？逆に、過不足無く飼料を給与するなど飼養管理の面の飼料利用性の向上であれば、「BCSを指標とした個体管理」→「過肥や削瘦の回避」の流れは理解できるものの、それはそもそも「改良目標」ではないのでは。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「過肥や削瘦の回避」の表現を削除し、「ボディコンディションスコアに基づく個体管理の励行を推進することにより、経営内での飼料利用性の改善を図ることが重要。」と修文</p>
6	2の(1)の⑤	飼料利用性	<p>飼料用米、稲WCS等の乳用牛への利用した場合の効果等の検討も含めてはどうか。 ※酪農家での飼料用米、稲WCSの利用推進を図りたいと考えているもの。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、2の(3)の④飼養管理に「また、生産コストの低減や飼料自給率の向上を図るため、放牧の活用を進めるとともに、耕畜連携等による稲発酵粗飼料(稲WCS)等の粗飼料や飼料用米の利用、地域の未利用資源の利用を推進」を追記</p>
7	2の(1)の⑤	飼料利用性	<p>水田フル活用の転作水稻として、飼料用米、飼料用イネの生産拡大が進められる中で、これらについても記載してはどうか。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、2の(3)の④飼養管理に「また、生産コストの低減や飼料自給率の向上を図るため、放牧の活用を進めるとともに、耕畜連携等による稲発酵粗飼料(稲WCS)等の粗飼料や飼料用米の利用、地域の未利用資源の利用を推進」を追記</p>

8	2の(2)	体型に関する改良目標	搾乳ロボットの導入促進を図ることを前提としているが、現在検討されている酪肉近での位置づけに沿ったものとなっているか。	搾乳ロボットの活用は、省力化のための重要な取組の一つであると認識されているものと思料
9	2の(2)	体型に関する改良目標	体型に関する改良目標としては、課題となっている「受胎率の改善」に関連し、「繁殖性向上のための尻の角度(斜尻)についての配慮」を加えてはどうか ※県内で統計的に斜尻が増加しているものではないが、受胎率の悪い生産農家から斜尻に対する意見があるもの。	2の(1)の④繁殖性において「繁殖性に関するデータの収集等の充実を図る」こととしているところであり、現状では、斜尻と受胎率の相関の強さについては評価できないところ。このため、現状を踏まえると時期尚早であり、今後の課題であると思料
10	2の(2)	体型に関する改良目標	酪農情勢が厳しい中、共進会の意義が問われている。共進会を通じた改良の効果を見直すためにも、体型が生産性に直接つながることを明確にできる方策についても検討していただきたい。	体型に関する改良目標は、共進会を目的としてとらえられるような記述であるべきではないという委員指摘もあったことから、生涯生産性の向上のための改良であることを強調した記述にしているところ
11	2の(2)	体型に関する改良目標	現状に応じた標準発育値の見直しを検討してはどうか。(現行のものは平成7年に作成)	標準発育値の見直しについては、本目標の策定作業とは別途のものとして、その要否について、関係団体と議論すべきものと思料
12	2の(2)	体型に関する改良目標	「供用期間延長等による長命連産性」について、目標値設定を検討されてはどうか。	現在の乳用牛の平均更新産次は3.5産程度と短縮傾向にあるが、定量的な目標値を設定した場合、その産次まで飼養すれば良いと誤解されるおそれがあるため、目標値設定に当たっては慎重な検討が必要であると思料
13	2の(3)の②の(ア)	改良手法	多様な改良ニーズに応えることには異論はないが、飼養管理方法の一形態である「放牧」に特化して言及する必要があるか。また、放牧に適した牛とは、具体的にどのような牛で遺伝的に確立されたものとなっているか。	省力化のための放牧に取り組む酪農家を支援することは重要。改良面からの支援として、牛群の欠点を補う能力を持ったNTPの順位だけによらない、国産種雄牛の活用が重要であり、その一例として放牧に関する記述を行っているところ。
14	2の(3)の②の(ア)	改良手法	「ゲノミック評価」の注釈が必要。	最終案において注釈を記載する見込み
15	2の(3)の②の(イ)	改良手法	乳牛改良目標なので、黒毛和種受精卵の生産拡大に触れる必要はないのではないか。	より高い能力の乳用牛から効率的に後継牛を生産できる性別技術の利用拡大は推進すべきものであり、その結果、後継牛生産に向かない空いた腹を有効に利用する方策についても触れることも重要と思料
16	2の(3)の②の(イ)	改良手法	「乳用牛の改良増殖目標」で和牛受精卵について触れることに違和感を覚える	
17	2の(3)の②の(イ)	改良手法	「リファレンス集団」の注釈が必要。	最終案において注釈を記載する見込み
18	2の(3)の④	飼養管理	家畜の快適性に配慮した飼養管理の表現は「カウコンフォート」が適切ではないか。(「カウコンフォート」に努めた結果を高めた結果、「アニマルウェルフェア」につながっていくものと思料。	我が国においては「アニマルウェルフェア」を、「家畜の快適性に配慮した飼養管理」として普及活動を図っていることから、このような表現としているところ。

19	2の(3)の ④	飼養管理	「ICT等の新技術」とは具体的には何を指すのか。	繁殖管理のための発情監視装置、分娩管理のための体温監視装置などを活用したシステムを指す。
20	2の(3)の ④	飼養管理	耐病性(乳房炎等)や耐暑性を持つ国産種雄牛の作出の可能性についても検討してはどうか。	乳房炎や耐暑性に優れた形質を持つ乳用牛の改良は、低泌乳牛を敢えて選抜することにも繋がるため、むしろ、飼養管理の改善により乳房炎の予防や暑熱対策を図ることが適当と思料